



モバイル・クラウド技術の出現で、アプリケーションソフトウェアの開発、設計、提供のあり方が根本的に変わりました。市場に出るまでの期間が短縮されたことと、一般ユーザー向けオンラインストアからダウンロードできる利便性で、個人向けモバイルアプリは急激に成長しています。その結果、職場でも使いやすいアプリを好む従業員が増えています。IT組織は、ビジネスプロセスの変革、従業員の生産性、ビジネスの成長を促すアプリケーション戦略により力を注いでいます。

しかし、職場でのアプリケーション開発や配布には時間とコストがかかります。たとえば、アプリ1つの開発コストは50万~100万米ドルで、開発から提供まで平均して7~12か月かかります*。したがって経営幹部やIT部門は、モバイルアプリ投資をデータとして把握し、ビジネス価値を最大化する必要があります。

MobileIron Insightsは、自社開発アプリと市販アプリの両方の配布に関する詳細な知識を管理者に与えます。そしてこの情報は、管理者がアプリストアとユーザーのエンゲージメント、アプリケーションの普及度、社内でのアプリ配布の改善などを考えるのに役立ちます。

利点

モバイルアプリケーションの開発と配布のROIを向上

アプリケーション導入の目標に適合

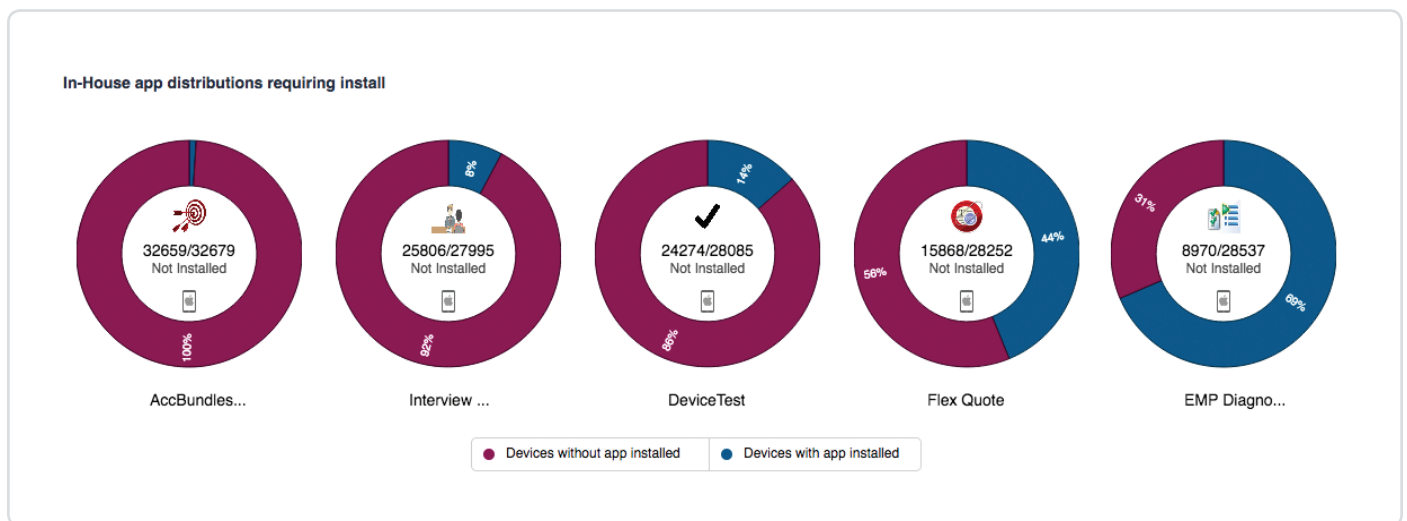
組織内のセキュリティ脆弱性を軽減

企業ポリシーを自動的に適用し、組織のリスクを最小化

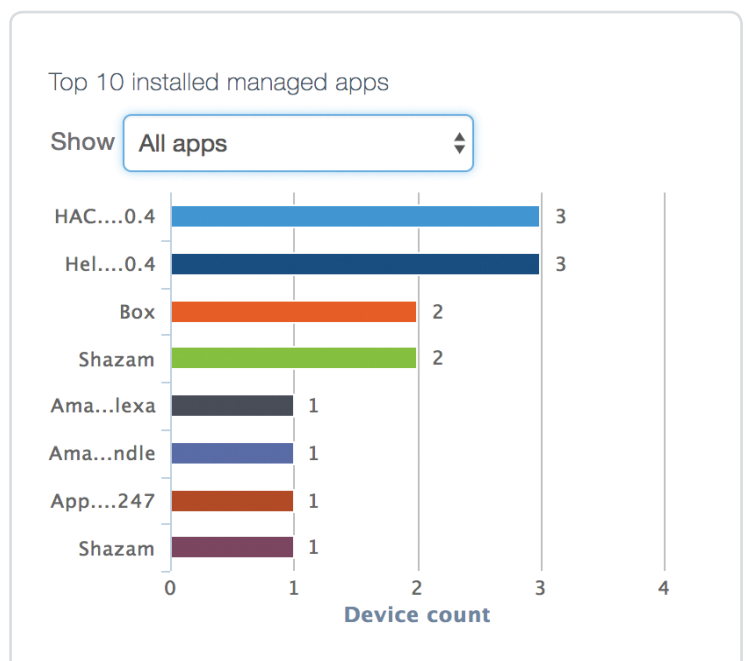
機能

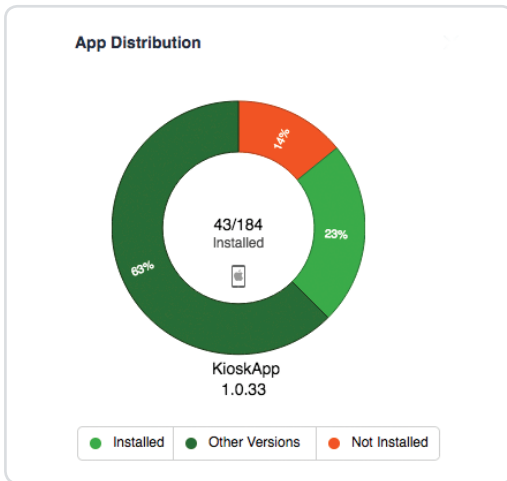
アプリケーション配布

MobileIronは、アプリケーション利用状況の情報をリアルタイムで組織に提供します。MobileIronのダッシュボードからMobileIron Insightsにアクセスすると、管理者は自社開発アプリと市販アプリの配布状況を分析し、どんなユーザーとグループがアプリをインストールし、どのアプリの配布率が最も高い、または低いかなどを判断できます。そして、組織内の普及率を高める対策を取ることができます。



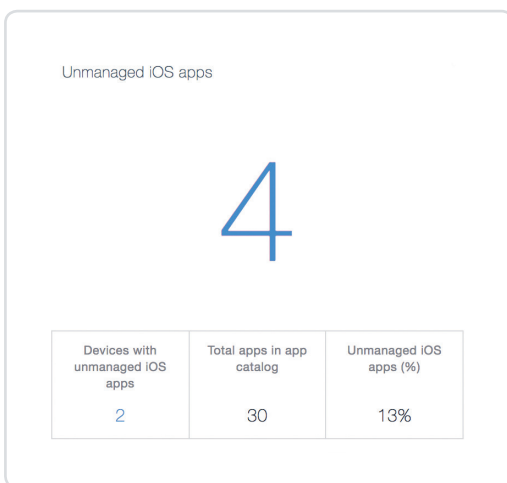
右に挙げたアプリは多くのユーザーに配布されていますが、インストール率は低いかもしれません。管理者は、インストールされたアプリの総数を明確にし、どのアプリが最も頻繁にインストールされたかを確認できます。





アプリケーションの詳細な調査

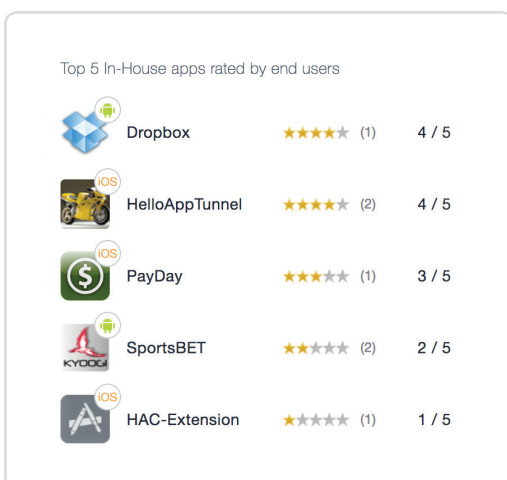
管理者は、各アプリの配布状況をさらに掘り下げることができます。現在導入されているアプリのバージョンは何か、どのデバイスが特定のアプリをダウンロードできるかなど、他の重要な情報も得られます。これにより、ダウンロードできるアプリケーションについてユーザーに通知する、デバイスのチェックインを強制する、場合によってはデバイスを隔離するなど、配布率を改善する対策を取ることができます。



非マネージドアプリケーションの監視

モバイル企業ユーザーの多くは、Office 365など、仕事用のアプリの非マネージドバージョンを個人的にデバイスに入れています。ユーザーがIT部門の知らない間に業務用ファイルにアクセスし、個人用クラウドサービスと共有できるとすれば、このような非マネージドアプリはセキュリティ脅威となる恐れがあります。このセキュリティの穴をふさぐため、MobileIron Insightsでは、デバイス上のビジネスデータにアクセスしようとする非マネージドアプリを特定し、ブロックすることができます。

その際、ユーザーには、マネージドバージョンのアプリをデバイスにインストールするよう指示を出します。ユーザーが企業ポリシーに適合していない場合、管理者は必要に応じて、企業データが侵害されないよう適切な対策を取ることができます。



評価の高いアプリケーションの特定

MobileIron Insightsは、ユーザーの評価が最も高い自社開発アプリのリストを表示できます。管理者は、どのようなアプリがユーザーに評価されるかを知ることができます。

*「Good news and bad for mobile app developers」より